



只見町ブナセンターだより

<季節のごあいさつ>

風に揺れるススキの穂や、コオロギ類・キリギリス類の鳴き声が秋の訪れを告げます。只見では朝晩涼しい時季となりましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。これからはブナをはじめとする樹木の紅葉が始まります。秋の只見に、ぜひお越しください。

===== 開 催 中 =====

【企画展アーカイブ】

只見の野鳥とその生態

本企画展は、2014年に開催した企画展「季節とともに生きる 只見の野鳥とその生態」のアーカイブ展です。只見町に生息する野鳥を紹介するパネルのほか、町民の方から寄贈いただいた豊富な鳥類の剥製標本や写真を展示しております。

- 会 期：2019年9月7日(土)～2019年9月30日(月)
- 場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー



===== 行 事 案 内 =====

【自然観察会】

野鳥観察会「只見町の秋の鳥～渡ってくる鳥・去る鳥」

企画展アーカイブ「只見町の野鳥とその生態」に関連して、野鳥観察会を開催します。みなさま、お誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

開催日時：2019年9月28日(土) 9時00分～12時00分

集合場所：ただみ・ブナと川のミュージアム (9時00分集合)

観察場所：只見川公園から只見川沿いに只見ダムまで

※ 荒天時には観察場所を縮小あるいは、館内でスライドを用いた講演を行います

持ち物：双眼鏡、飲み物、雨具 ※ 双眼鏡をお持ちでない方にはお貸しします

参加費：高校生以上500円、小中学生400円(保険料を含む)

定員：20名(事前予約制)

※ 締切 9月26日(木) 5名に満たない場合は中止とさせていただきますのでご了承ください

お申し込み・お問い合わせは只見町ブナセンターまで ☎ 0241-72-8355

【『ただみ観察の森』 観察会】

杉沢のユビソヤナギ林 ～保全の必要性について考える～

『ただみ観察の森』は、只見町の自然環境や野生動植物の現状を理解し、それらを身近に触れてもらうとともに保全を図ることを目的として、町内に7カ所指定されています。今年度の第2弾となる観察会は、杉沢のユビソヤナギ林で実施します。只見町の伊南川流域は、絶滅危惧種ユビソヤナギの日本最大級の自生地です。この観察会では、ユビソヤナギの生態や河川環境の保全について考えます。

開催日時：2019年10月5日（土） 10時00分～12時00分

集合場所：熊倉集会所（只見町熊倉五位田割 283、 10時00分集合）

観察場所：杉沢のユビソヤナギ林

※ 荒天時は中止あるいは時間を短縮することがあります

持ち物：飲み物、雨具、長靴

参加費：高校生以上 200 円、小中学生 100 円（保険料）

定員：30名（事前予約制）

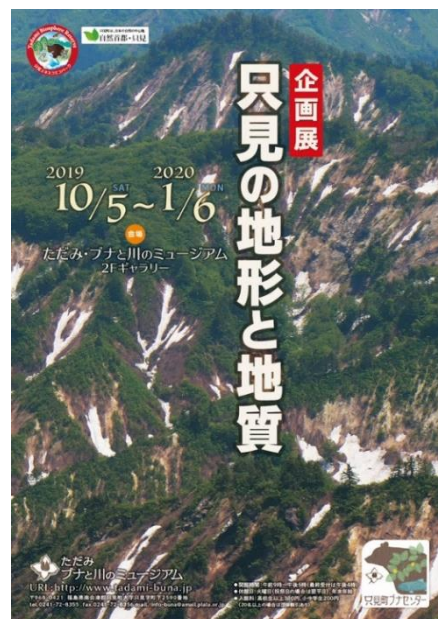
お申し込み・お問い合わせは只見町ブナセンターまで ☎ 0241-72-8355

【企画展】

只見の地形と地質

只見町は、福島県の西端、新潟県境の越後山脈に接する山間地域で、周囲は標高 1,000m 前後の山々に囲まれています。山地では冬季の豪雪による雪崩で浸食されて雪食（せっしょく）地形が発達し、それゆえ急峻で複雑な山地構造の上にはブナ林をはじめとする異なる植生がモザイク状に成立しています。さらに、山の雪解け水や雨水は沢となり、やがては別の沢と合流し川となり、町内の谷や平野部を血管のように流れ下ります。そうした水辺域でもまた溪畔林や河畔林など特異な植生が形成されます。

さて、このように多様で豊かな只見町の自然環境はどのように形成されてきたのでしょうか。その要因の1つとしてこの地域に広がる地質、地形が挙げられます。そこで本企画展では、只見町の過去から現在までに形成されてきた地質構造や地形に着目し、その特徴とそこに成立する植生について紹介します。



- 会 期：2019年10月5日（土）～2020年1月6日（月）
- 場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

【ブナセンター講座】

地層からひもとく只見の自然

只見町史の地形・地質分野を執筆された、福島県立博物館の竹谷陽二郎氏を講師にお招きし、只見地域に分布する地層・岩層の特徴や、地形の形成など、只見町史編さん事業での当時の調査のことも交えながらお話いただきます。

講 師：竹谷 陽二郎 氏（元福島県立博物館学芸員）

開催日時：2019年10月13日（日）14時30分～16時30分

会 場：ただみ・ブナと川のミュージアム セミナー室

参加費：無料 ※ 但し、入館料が必要になります



【自然観察会】

只見の地形と地層、植生を観察しよう！

浅草岳の只見沢周辺は、第三紀の海底火山活動による堆積物の地層に加え、第四紀の陸上火山であった浅草岳の噴出物の地層が広がり、雪食地形、浅草岳の火山地形、渓谷といった地形も観察できます。そして、そうした地質・地形の上に成立するブナ林やトチノキ・サワグルミなどの溪畔林植生も観察することができます。秋の只見の森を歩きながら、地質・地形から只見地域の大地の成り立ち、そして、現在の植生の関係について学びます。

開催日時：2019年10月14日（月・祝） 9時30分～14時00分

集合場所：ただみ・ブナと川のミュージアム（9時30分集合）

観察場所：浅草岳只見沢登山道沿い

※ 荒天時は中止あるいは時間を短縮することがあります

持ち物：昼食、飲み物、雨具、長靴

参加費：高校生以上500円、小中学生400円（保険料を含む）

定 員：30名（事前予約制） ※ 締切 10月10日（木）

お申し込み・お問い合わせは只見町ブナセンターまで ☎ 0241-72-8355

【巨樹・巨木の保全】

あがりこ型樹形のコナラをナラ枯れから守る！

5月下旬から6月にかけて、只見町黒沢と館ノ川において、あがりこ型樹形のコナラ、ミズナラおよびクリの巨木を対象に、ナラ枯れの防除作業を行いました。ナラ枯れとは、カシノナガキクイムシが媒介する病原菌「ナラ菌」によってナラ類や、シイ・カシ類が集団的に枯死する現象のことです。ナラ枯れの被害は大径木ほど受けやすく、枯死したナラ類の葉は梅雨明けの7月～9月に赤く変色します。

只見町内におけるナラ枯れ被害は、2009年頃から新潟県境の六十里越や八十里越付近にて確認されるようになり、その後は只見川流域と伊南川流域に沿って拡大しました。2015年までに被害量は徐々に減少し、そのまま終息するかと思われましたが、翌2016年には急激に増加しました（詳細は、ブナセンター紀要No.7の石川ら（2019）に掲載しております）。

ブナセンターでは、地元住民による薪炭利用を目的に行われた雪上での枝の伐採の結果出来上がった全国的に珍しいあがりこ型樹形のコナラ巨木を中心として、これらをナラ枯れ被害から守るために、樹木の幹への殺菌剤注入を2012年から継続的に実施しています。作業としては、まず防除対象のコナラあるいはクリ、ミズナラの胸高周囲長をメジャーで測定し、ナンバーテープで個体を識別します。次に、ドリルで幹の周囲に穴を複数開け、高濃度濃縮タイプの殺菌剤を注入します。殺菌剤の効果は約2年とされているため、この防除作業は1年おきに行っています。

今回は、80本ほどのあがりこ型樹形のコナラやミズナラ、クリに処理を行いました。この防除作業も今年度で8年目となり、今後の防除方針及び方法について検討する必要も出てきたため、今年度の防除作業後に、ナラ枯れ研究の第一人者である山形県森林研究研修センターの齊藤正一研究主幹（只見ユネスコエコパーク支援委員会委員）を招聘し、今後の対応についてご指導をいただきました。ブナセンターでは引き続き、只見地域での住民による森林利用の歴史を伝えるこのあがりこの保全に取り組んでいきます。



▲あがりこ型樹形のコナラ巨木



▲幹に穴をあけ、殺菌剤を注入する

檜戸のブナ二次林

檜戸のブナ二次林で令和元年度初の『ただみ観察の森観察会』を実施しました。『ただみ観察の森』は広大で奥深い只見の自然を身近に体験し、理解いただく場として、只見町ブナセンターが地域住民の方々の理解と協力のもとで指定し、整備を行っています。地権者の方のお話やブナセンターの調査によれば、檜戸の『観察の森』は薪炭利用にブナ天然林を皆伐した後、ブナやミズナラ、クリの混交した二次林が成立しました。さらに、30年ほど前にミズナラやク리를シイタケ栽培の楢木（ほだぎ）として利用するために選択的に伐採したため、現在ではブナの純林に近い状態になったことがわかっています。集落裏に隣接する檜戸のブナ二次林は、このような人と森林の歴史的なつながりを知ることができる森林です。

参加者は檜戸のブナ二次林の来歴について学びながら、現在のブナ林の様子を観察しました。

『観察の森』には、触ると肌がかぶれるヌルデやヤマウルシ、ツタウルシのほか、林床には様々な樹種の実生が見られました。ブナに幹が似ているホオノキもありましたが、頭上の葉の形や大きさを比べてみると、両者の違いがよくわかるとブナセンタースタッフが解説しました。また、『観察の森』で最も大きいブナの胸高周囲長がどのくらいなのか、参加者に予想していただきながら実測しました。



▲ブナの胸高周囲長を実測する

観察会の参加者は7名でした。参加者からは、「人によるコナラやクリの利用、炭焼きなどの説明があり、その土地の歴史を感じられる内容でとても良かった」、「生態系の話だけでなく、林を人がどのように利用してきたかなどの民俗についても触れられて面白かった」といった感想をいただきました。一方で、「ブナ以外のいろいろな樹木についても知りたい」、「植物の見分け方や山菜としての活用方法を知りたい」、など貴重な意見・要望もいただきました。これらは、今後のブナセンターの観察会の参考とさせていただきます。



▲参加者の集合写真

昼近くに撮影を終了し、塩沢集落内にある「そば処 しおさわ庵」に移動して昼食をいただき、午後はここの会場をお借りして、この日参加者が撮った写真について猪又氏から講評をいただきました。写真教室には15名の方にご参加いただき、体調を悪くされる方もなく無事に終わることができました。



▲そば処 しおさわ庵で写真の講評を行う

===== お 知 ら せ =====

【只見町ブナセンター指導員の紹介】

えんどう な お こ
遠藤菜緒子 (只見町ブナセンター指導員・学芸専門員)

ブナセンターに勤務し7年目になります。宮城県仙台市出身で、鳥類の行動生態学を専門とし、ゴイサギの採食行動と環境利用についてや、サギ類集団繁殖地の動態について研究してきました。ブナセンターでは、友の会の方々や町民のみなさまにたくさん支えていただき感謝しています。みなさまの期待に応えられるよう、もっと町の方々の中に入り、只見のことを積極的に学び、お役にたてるよう頑張りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



いしかわたかひろ
石川貴大 (只見町ブナセンター指導員)

只見町には豪雪によって育まれた雪食地形やその上に成立するモザイク植生など特徴的な自然景観が広がっています。また、その自然の雄大さは実際にそこへ足を踏み入れることで実感することができます。只見町に来て4年になりますが、新しい発見に飽きることはありません。皆様にもミュージアムの展示や自然観察会などを通して、只見の自然の素晴らしさを感じていただけるように頑張ります。



只見町ブナセンター 2019年度下半期行事一覧（予定）

	企画展等	ブナセンター講座等	自然観察会
9月	9月7日～9月30日 企画展アーカイブ 「只見の野鳥とその生態」		9月28日 野鳥観察会
10月	10月5日～1月6日 企画展 「只見の地形と地質」	10月13日 地層からひもとく只見の自然	10月5日 ただみ観察の森観察会②
11月			10月14日 只見の地形と地質、植生を 観察しよう
12月		小林早乙女踊りの歴史と民俗	ただみ観察の森観察会③
1月	1月11日～3月下旬 企画展 「只見の樹木（仮）」	草木染め体験教室	
2月			
3月		大型野生動物の増加と人間 （兼）保護監視員講習	冬のブナ林観察会

<編集後記> 今夏、仕事や休日に外へ出るときは、セミの鳴き声に耳を傾けていました。只見には、セミ類は10種ほど分布しておりますが、種によって生息環境が異なるため、環境ごとに聞こえてくる鳴き声も違います。人家周辺にはニイニイゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシが多く、山地斜面の林にはミンミンゼミとヒグラシ、そしてブナ林にはエゾゼミの仲間が多くみられます。こうした生き物たちの鳴き声を聞き分けながら散策するのも一興かと思えます。今後もブナセンターでは、企画展や講座・自然観察会を企画しておりますので、みなさまぜひご参加ください。（緒勝）

発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地

電話 0241(72)8355 ホームページ <http://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356 電子メール info-buna@amail.plala.or.jp

Facebook <https://www.facebook.com/tadami.buna>

付属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」、「ふるさと館田子倉」

開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月3日）

入館料：高校生以上 300円 小中学生 200円 未就学児無料（20人以上は団体割引）



只見町ブナセンター